

# 2012年12月期 第1四半期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社  
代表取締役社長  
吉野 公一郎

**JASDAQ**

証券コード:4572

- ✓ 売上高は、対前年同期比19.5%減
- ✓ 営業損益は、売上高の減少、売上原価率の悪化等により前期より49百万円のマイナス
- ✓ 経常損益は、営業損益の悪化により前期より49百万円のマイナス
- ✓ 当期純損益は、経常損益の悪化及び特別損失の改善により前期より36百万円のマイナス

(百万円)

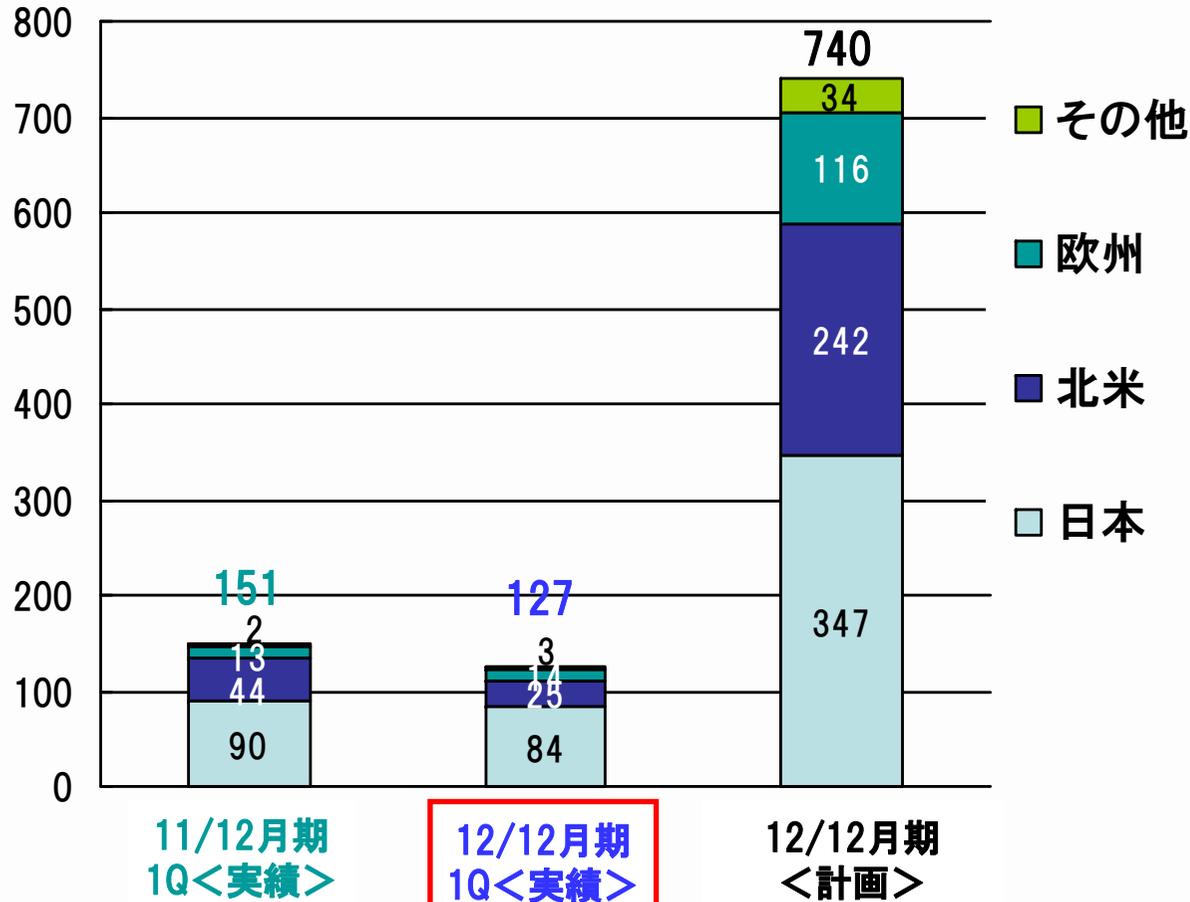
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2012年12月期第1四半期実績 (a)	127	△115	△114	△116
2011年12月期第1四半期実績 (b)	158	△65	△64	△80
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	△30	△49	△49	△36
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	△19.5%	—	—	—
2012年 計画値 (e)	840	△275	△259	△266
対通期計画 進捗率 (%)	15.2%	—	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 当期通期計画値は、2012年2月10日発表の通期計画に基づいております。

(注3) 対通期計画に対する進捗率における、「営業利益」「経常利益」「当期純利益」の値はそれぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

## (百万円) 地域別売上高(連結)



創薬支援全体の売上は  
前年同期比15.7%減

・国内は前年同期比6.7%減

・北米は前年同期比43.6%減

⇒タンパク質売上的大幅減少

・欧州は前年同期比6.9%増

⇒セルベースアッセイ売上による

・その他は前年同期比41.0%増

⇒タンパク売上増

為替レート(US\$): 82.29円

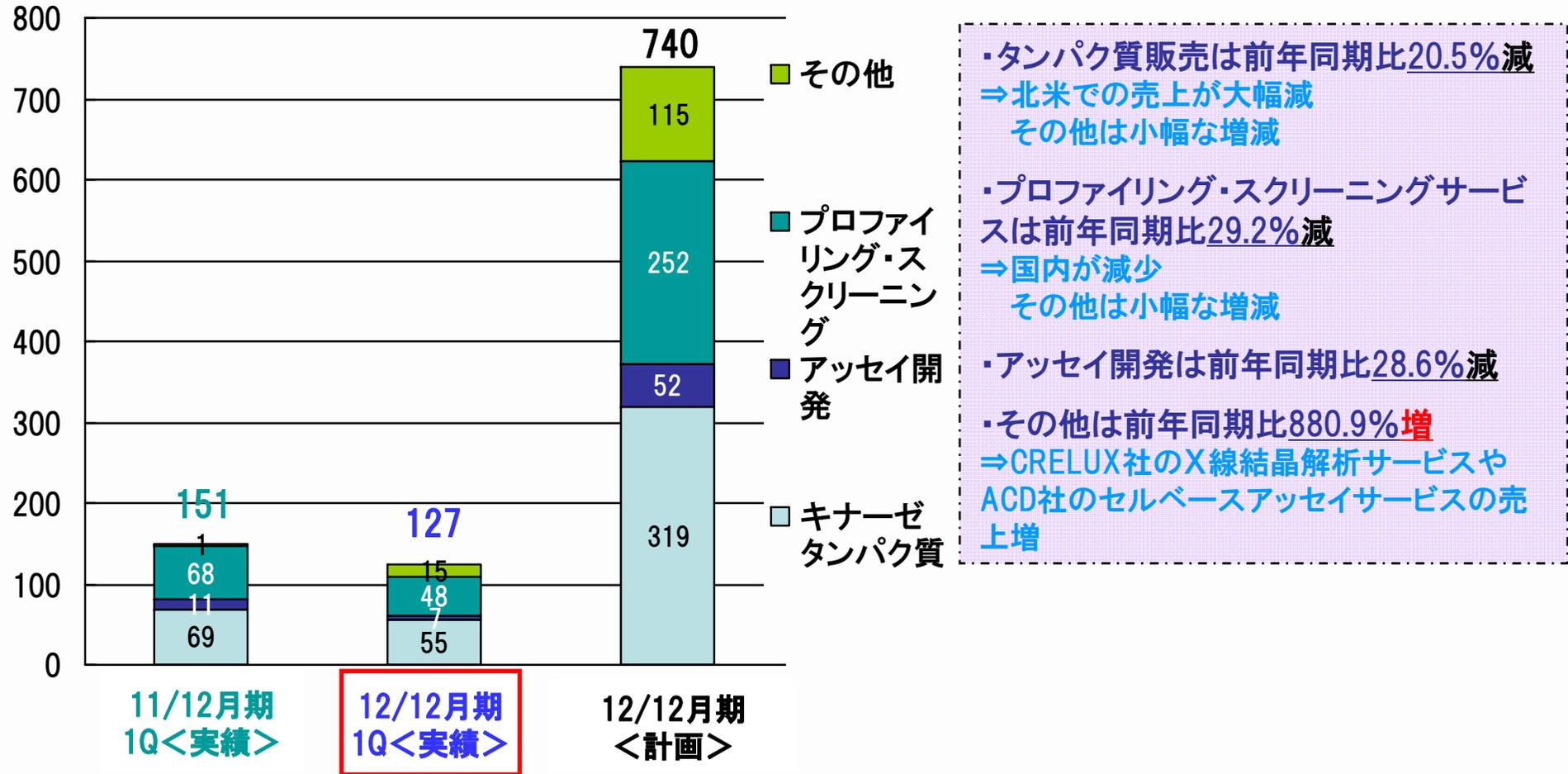
海外売上比率: 40.3%

79.37円

34.0%

77.00円

## (百万円) 製品別売上高(連結)



- ✓ 売上高及び売上原価の悪化に伴い、売上総利益、営業利益及び経常利益がマイナス
- ✓ 四半期純利益は、経常利益の悪化及び特別損失の改善等によりマイナス

(百万円)

		2012年12月期 1Q累計実績	2011年12月期 1Q累計実績	前年同期比 (増減額)	主な増減理由
売上	創薬支援事業	127	151	△23	主に北米でのタンパク質売上の減少による
	創薬事業	—	7	△7	共同研究による分担金収入のマイナス(契約内容の見直しによる)
	合計	127	158	△30	
売上原価		55	43	12	外製品販売の増加に伴う
売上総利益		72	115	△42	売上減少+売上原価増
販管費	研究開発費	82	78	3	
	販管費 (研究開発費を除く)	104	101	2	
	合計	187	180	6	
営業利益		△115	△65	△49	
営業外損益		0	0	0	
経常利益		△114	△64	△49	
特別損失		2	10	△8	当期)資産除去債務基準適用影響額+固定資産減損 前期)固定資産減損
四半期純利益		△116	△80	△36	経常損益の悪化+特損の減少

(百万円)

	2012年12月期 第1四半期末	2011年12月末	増減額	増減理由
流動資産	997	1,123	△125	
現金及び預金	557	701	△143	研究開発資金等
有価証券	200	200	—	
その他	240	221	18	前払費用増等
固定資産	226	194	32	
資産合計	1,224	1,317	△93	
負債合計	296	298	△2	未払金増、長期借入金減等による
純資産合計	928	1,019	△90	
負債・純資産合計	1,224	1,317	△93	

## （創薬支援事業）

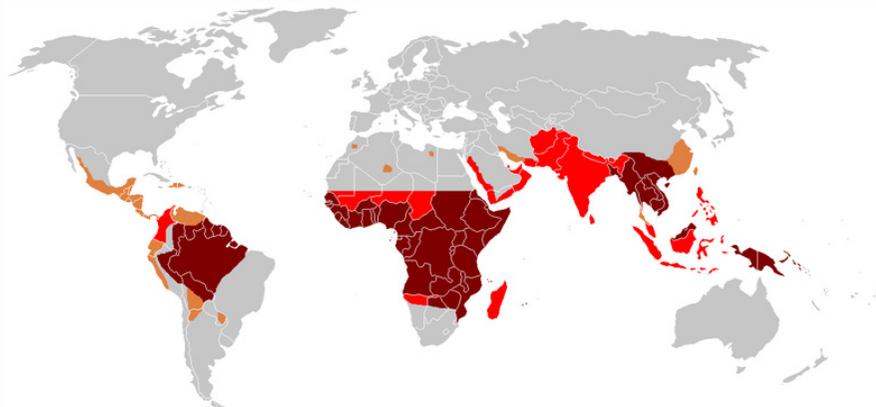
- 北米での売上拡大
- OEM供給等によるタンパク質売上の拡大
- セルベースアッセイ等の高次評価サービス系の構築、売上拡大
- 継続的な学術営業やセミナーの開催による顧客数増

## （創薬事業）

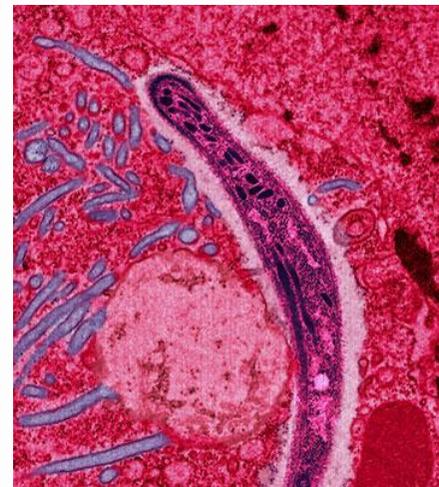
- 重点領域のガン分野において動物モデルでの高次評価を実施
- キナーゼEにおける化合物最適化研究への注力
- DYRK1A研究における共同研究の推進
- 外部研究リソースの有効活用

## 北里大学 北里生命科学研究所との共同研究が A-STEPに採択

マラリアとは・・・熱帯から亜熱帯にかけて広く発生する原虫感染症



マラリアの流行地域



マラリア原虫の電子顕微鏡写真  
(wikipediaより引用)



マラリア原虫を媒介する  
ハマダラカ  
(wikipediaより引用)

2010年度

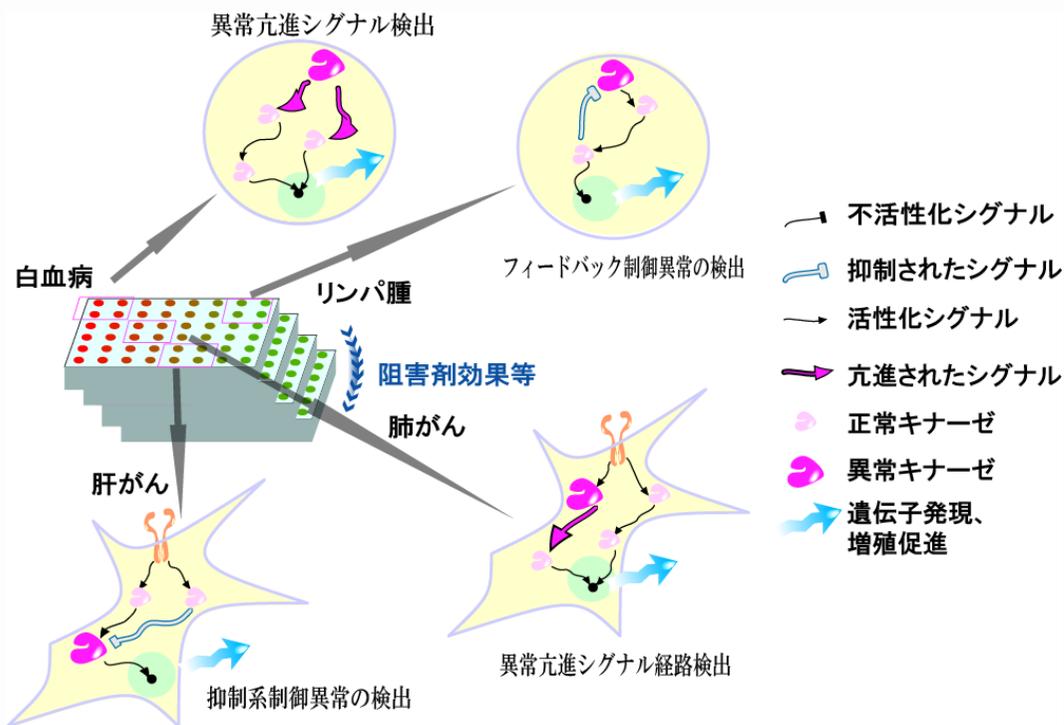
マラリアによる年間の罹患者数 2億1600万人  
死亡者数 65万5000人  
(「WORLD MALARIA REPORT 2011」より引用)

マラリアキナーゼのキナーゼ活性を阻害  
する分子標的薬を2011年より共同研究。

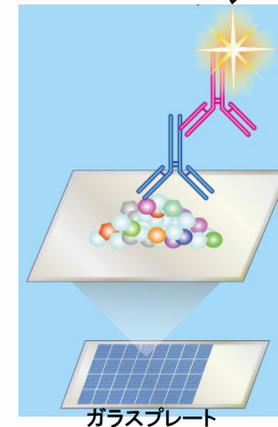
## 独立行政法人国立がん研究センターとの 独占的実施契約締結のお知らせ (RPPA技術)

RPPA技術では、従来技術に比べ感度よく、白血病、ガン、リンパ腫などの細胞内におけるさまざまなキナーゼの異常シグナル経路を確認することができます。本年度中の売上計上に向け事業化に取り組んでいます。

RPPA・・・Reverse Phase Protein Array:逆相タンパク質アレイ)



リン酸化部位には抗体が結合し蛍光を発する

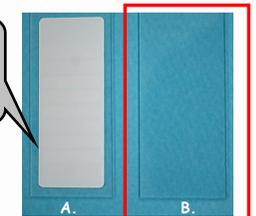


被検サンプルが含まれた細胞溶解液

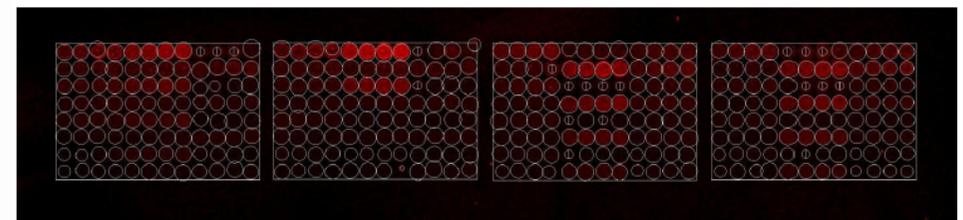


細胞溶解液を載せたガラスプレート

従来技術は膜の蛍光により感度が悪い



解析機器でスキャンしたイメージ



今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac(心臓)の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物学と言われ、生物学(Biology)と生命科学(Life Science)から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀に向けて、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社  
経営管理本部 経営企画部  
〒650-0047  
兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F  
Tel (078)302-7075 Fax (078)302-6665  
<http://www.carnabio.com/>  
ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。